

田園調布発の新しい医療スタイル

「家庭医」の 実践に取り組むクリニック

第一回 病児保育編



院長 梅沢義裕先生

昭和58年岩手医科大学卒業後、医療法人鉄蕉会亀田総合病院理事などを経て、家庭医の研修を終了。平成15年7月には、田園調布ファミリークリニックを開業する。

欧米には、家庭医診療科という専門科が設けられ、多様な知識を持った医師が、地域に根ざした活動をしています。そのスタイルを目指して、家庭医の中でも、特に病児保育に力を入れる梅沢先生を訪ねました。

「家庭医」としての役割を目指して

梅沢義裕先生が院長を務める、田園調布ファミリークリニック。この診療所では、内科、小児科などの診療科目に特化した体制とは違う、「家庭医」というスタイルを実践しています。欧米では広く浸透している「家庭医」とは、幅広い医療知識を持った医師が、患者やその家族の、かかりつけ医師として、総合的に診察、診療するシステムのことです。

梅沢先生は、様々な症状に対処し、かかりつけの患者に対しては24時間体制で対応するという熱意の持ち主。クリニック開業の際には、自ら設計にも関わりました。設計のコンセプトは、患者の不安を軽減するため、病院ほくない一般家庭のような設計。「待合室はリビング、大人診察室は書斎」小児科は「子供部屋」。さらに小児科は待合で感染しないように、「感染隔離診察室」も作りました。

少人数制で安心して任せられる病児保育

梅沢先生が重視する家庭医の仕事の一



開放感のある小児科待合室。賑やかなおもちゃや、スタッフ手作りのダンボール製の家に囲まれた楽しい空間で、診療までの時間もリラックスできます。

つが、病児保育です。働くママやパパにとって、子どもの病気は心配であると同時に、長期間仕事を休まなければならないのはつらいところ。ここでは、定員4名に対して、保育士、看護師などの資格を持つ2名のスタッフがいるため、細かなところまで目が行き届く安心感があります。保育室「アリエル」はクリニックと併設されているため、何かあったときはすぐに先生が駆けつけてくれるのも心強いですね。

病児保育は1時間につき1,100円（税別）がかかりますが、「アリエル」自体



病児保育ルーム「アリエル」の中の様子。とても広々としたこの部屋の定員は4名。一人一人のスペースに余裕があるので、安心して利用できます。

が大田区の補助を受けているため、大田区の子どもは助成を受けた金額で利用することができます。

「ぜひ、区外や多くの方に利用していただきたいですね。朝は、ママと一緒に来て、ママに行つてほしい。帰りは、パパがお迎えで、お帰りのさい。毎日がこんな風景です。」今後も患者にとってベストな病院を目指した取り組みが期待できそうです。